

Exastro-ITA_【参考】インストール時の各コンフィグ設定値

1. MariaDB(server.cnf) 設定値の変更箇所リスト

ITAインストール後の設定はMariaDB10.4、かつ、ITAシステムサーバ※1 の最小スペック（CPU：2コア／メモリ：4GB）にて動作するように設計されています。

チューニング参考値は、CPU：4コア／メモリ：8GBにした場合の参考値です。

※1 ITAシステムサーバ … Ansibleサーバなど連携ドライバのサーバを別構成にしたITA基本構成

No.	必須/参考	設定項目	初期値	ITAインストール後	チューニング参考値	備考
1	必須	explicit_defaults_for_timestamp	OFF	TRUE	TRUE	
2	必須	character-set-server	latin1	utf8	utf8	
3	必須	transaction-isolation	REPEATABLE-READ	READ-COMMITTED	READ-COMMITTED	トランザクションの分離レベルを指定。 「READ-COMMITTED」は多くのデータベースシステム（Oracle、PostgreSQL、SQL Server）でデフォルトの分離レベル。 MariaDBのデフォルトは「REPEATABLE-READ」であるがITAの利用方針と合わないため変更する必要がある。
4	参考	innodb_buffer_pool_size	128MB	512MB	1024MB	ITAの使い方に応じてチューニングを検討。
5	参考	innodb_log_buffer_size	16MB	64M	128M	ITAの使い方に応じてチューニングを検討。
6	参考	innodb_log_file_size	48MB	256M	384M	ITAの使い方に応じてチューニングを検討。
7	参考	min_examined_row_limit	0	100	100	ITAの使い方に応じてチューニングを検討。
8	参考	join_buffer_size	256KB	128M	256M	ITAの使い方に応じてチューニングを検討。
9	参考	query_cache_size	1M	512M	1024M	ITAの使い方に応じてチューニングを検討。
10	参考	query_cache_type	OFF	1	1	
11	参考	max_heap_table_size	16MB	64M	128M	ITAの使い方に応じてチューニングを検討。
12	参考	tmp_table_size	16MB	64M	128M	ITAの使い方に応じてチューニングを検討。
13	参考	mrr_buffer_size	256KB	64M	128M	ITAの使い方に応じてチューニングを検討。
14	参考	max_connections	151	256	5000	ITAの使い方に応じてチューニングを検討。

Exastro-ITA_【参考】インストール時の各コンフィグ設定値

2. PHP(PHP.INI) 設定値の変更箇所リスト

以下の設定は、ITAシステムサーバ※1 の最小スペック（CPU：2コア／メモリ：4GB）にて動作するように設計されています。
チューニング参考値は、CPU：4コア／メモリ：8GBにした場合の参考値です。
※1 ITAシステムサーバ … Ansibleサーバなど連携ドライバのサーバを別構成にしたITA基本構成

No.	必須/参考	設定項目	初期値	ITAインストール後	チューニング参考値	備考
1	参考	output_buffering	4096	8192	16384	ITAの使い方に応じてチューニングを検討。
2	参考	expose_php	On	Off	Off	PHPバージョンを隠す場合に設定を変更。
3	参考	max_execution_time	30	600	600	ITA利用時にタイムアウト等発生の際はチューニングを検討。
4	参考	max_input_time	60	600	600	ITA利用時にタイムアウト等発生の際はチューニングを検討。
5	参考	memory_limit	128M	512M	1024M	ITA利用時にPHPのメモリ不足が発生する場合はチューニングを検討。
6	参考	post_max_size	8M	4096M	4096M	ITA利用時に大容量の登録/更新ができない場合はチューニングを検討。
7	参考	upload_max_filesize	2M	4096M	4096M	ITAにてファイルアップロードしたいサイズによりチューニングを検討。
8	参考	default_socket_timeout	60	600	600	ITAの使い方に応じてチューニングを検討。
9	必須	date.timezone	;date.timezone =	"Asia/Tokyo"	"Asia/Tokyo"	※コメント解除+変更
10	参考	pdo_mysql.cache_size	2000	4000	8000	ITAの使い方に応じてチューニングを検討。
11	必須	pdo_mysql.default_socket	(値空白)	/var/lib/mysql/mysql.sock	/var/lib/mysql/mysql.sock	ITAはPHPからPDOを利用してMySQLに接続している。
12	参考	mysql.cache_size	2000	4000	8000	ITAの使い方に応じてチューニングを検討。
13	参考	mysql.connect_timeout	60	600	600	ITAの使い方に応じてチューニングを検討。
14	必須	session.save_path	;session.save_path = "/tmp"	"/var/lib/php/session"	"/var/lib/php/session"	変更後のディレクトリは作成しておく必要がある。 デフォルト(/tmp)は非推奨。 ※コメント解除+変更
15	必須	session.gc_divisor	1000	1	1	PHPセッションファイルのGCを制御する。 左記の設定では、 session.gc_probability = 1
16	必須	session.gc_maxlifetime	1440	43200	43200	のデフォルト値との組み合わせで、 12時間以上経過のセッションファイルを100%の確率でGCする。
17	必須	mbstring.language	;mbstring.language = Japanese	Japanese	Japanese	※コメント解除
18	必須	mbstring.internal_encoding	;mbstring.internal_encoding =	UTF-8	UTF-8	※コメント解除+変更
19	必須	mbstring.http_input	;mbstring.http_input =	auto	auto	※コメント解除+変更
20	必須	mbstring.http_output	;mbstring.http_output =	UTF-8	UTF-8	※コメント解除+変更
21	必須	mbstring.encoding_translation	;mbstring.encoding_translation = Off	Off	Off	※コメント解除
22	必須	mbstring.detect_order	;mbstring.detect_order = auto	auto	auto	※コメント解除
23	必須	mbstring.substitute_character	;mbstring.substitute_character = none	none	none	※コメント解除
24	必須	extension	(項目なし)	yaml.so	yaml.so	※追記

Exastro-ITA_【参考】インストール時の各コンフィグ設定値

3. Ansible (ansible.cfg) 設定変更箇所

No.	必須/参考	設定項目	初期値	ITAインストール後	備考
1	必須	inventory	#inventory = /etc/ansible/hosts	/etc/ansible/hos	※コメント解除
2	必須	remote_tmp	#remote_tmp = ~/.ansible/tmp	~/.ansible/tmp	※コメント解除
3	必須	forks	#forks = 5	5	※コメント解除
4	必須	poll_interval	#poll_interval = 15	15	※コメント解除
5	必須	sudo_user	#sudo_user = root	root	※コメント解除
6	必須	transport	#transport = smart	smart	※コメント解除
7	必須	module_lang	#module_lang = C	C	※コメント解除
8	必須	gathering	#gathering = implicit	implicit	※コメント解除
9	必須	host_key_checking	#host_key_checking = False	FALSE	※コメント解除
10	必須	sudo_exe	#sudo_exe = sudo	sudo	※コメント解除
11	必須	timeout	#timeout = 10	60	※コメント解除+変更
12	必須	ansible_managed	#ansible_managed = Ansible managed	Ansible managed	※コメント解除
13	必須	deprecation_warnings	#deprecation_warnings = True	FALSE	※コメント解除+変更
14	必須	action_plugins	#action_plugins = /usr/share/ansible/plugins/action	/usr/share/ansible/plugins/action	※コメント解除
15	必須	callback_plugins	#callback_plugins = /usr/share/ansible/plugins/callback	/usr/share/ansible/plugins/callback	※コメント解除
16	必須	connection_plugins	#connection_plugins = /usr/share/ansible/plugins/connection	/usr/share/ansible/plugins/connection	※コメント解除
17	必須	lookup_plugins	#lookup_plugins = /usr/share/ansible/plugins/lookup	/usr/share/ansible/plugins/lookup	※コメント解除
18	必須	vars_plugins	#vars_plugins = /usr/share/ansible/plugins/vars	/usr/share/ansible/plugins/vars	※コメント解除
19	必須	filter_plugins	#filter_plugins = /usr/share/ansible/plugins/filter	/usr/share/ansible/plugins/filter	※コメント解除
20	必須	fact_caching	#fact_caching = memory	memory	※コメント解除
21	必須	ssh_args	#ssh_args = -C -o ControlMaster=auto -o ControlPersist=60s	-o ControlMaster=auto -o ControlPersist=60s	※コメント解除+変更
22	必須	accelerate_port	#accelerate_port = 5099	no -o UserKnownHostsFile=/dev/null	※コメント解除
23	必須	accelerate_timeout	#accelerate_timeout = 30	5099	※コメント解除
24	必須	accelerate_connect_timeout	#accelerate_connect_timeout = 5.0	30	※コメント解除
25	必須	accelerate_daemon_timeout	#accelerate_daemon_timeout = 30	5	※コメント解除

Exastro-ITA_【参考】インストール時の各コンフィグ設定値

4. ITA設定ファイル説明

No.	インストールシステム／連携ドライバ						設定ファイル名	説明
	ITA-BASE	Ansible	Cobbler	Open Stack	DSC	Ansible Tower		
1			○				(ITAインストールディレクトリ)/ita-root/conf/backyardconfs/cobbler_driver/path_DATA_RELAY_STRAGE_side_Cobbler	Cobblerサーバにて、データリレイストレージのルートパスを定義。
2	○						(ITAインストールディレクトリ)/ita-root/conf/backyardconfs/ita_base/data_portability_running_limit.txt	データポータビリティの、インポート処理の実行時間制限値。 設定値を過ぎても実行中の処理は失敗と判定する。 単位は秒。デフォルトは300を指定。
3	○	○			○	○	(ITAインストールディレクトリ)/ita-root/conf/backyardconfs/ita_base/hide_menu_column_list.txt	代入値自動登録設定の項目表示から除外するカラムを記載する。 「#」 始まりの行は無視される。
4	○	○	○	○	○	○	(ITAインストールディレクトリ)/ita-root/conf/backyardconfs/ita_env	バックヤード機能のログレベルとITAのリードディレクトリ(ita-root)を記載する。
5	○	○	○	○	○	○	(ITAインストールディレクトリ)/ita-root/conf/backyardconfs/path_PHP_MODULE.txt	PHPモジュールのパスを記載。 例：/bin/php
6	○						(ITAインストールディレクトリ)/ita-root/conf/backyardconfs/sysmail.list	システムメール(ky_mail)を利用する場合の設定を記載する。 ※ITAのメール送信機能(ky_mail)を利用しない場合は不要。
7		○				○	(ITAインストールディレクトリ)/ita-root/conf/commonconfs/ansible_vault_accesskey.txt	ansible-vaultコマンドのパスワード パスワードの変更は、 I T Aインストール直後のみ動作保証しています。 運用中に変更したり、パスワードが一致して環境へのメニューエクスポート・メニューインポートは動作保証していません。 例：「ANSIBLE-VAULT-PASSWORD」を暗号した文字列。 暗号仕様については※1を参照
8	○						(ITAインストールディレクトリ)/ita-root/conf/commonconfs/app_mail_from.txt	WebDBCoreからシステムメール(ky_mail)を利用する場合に、送信元アドレスになる。 ※00_loadtable.phpにアクション契機でメール送信する場合。 ※ITAのメール送信機能(ky_mail)を利用しない場合は不要。
9	○	○			○	○	(ITAインストールディレクトリ)/ita-root/conf/commonconfs/app_msg_language.txt	ITAの使用言語を定義する。 日本語の場合は「ja_JP」を記載。
10	○	○	○	○	○	○	(ITAインストールディレクトリ)/ita-root/conf/commonconfs/db_connection_string.txt	MySQLへの接続文字列。 例：「mysql:dbname=ITA_DB;host=localhost」を暗号した文字列 暗号仕様については※1を参照
11	○	○	○	○	○	○	(ITAインストールディレクトリ)/ita-root/conf/commonconfs/db_model_string.txt	RDBの種別を定義。 0：OracleDB 1：MySQL/MariaDB
12	○	○	○	○	○	○	(ITAインストールディレクトリ)/ita-root/conf/commonconfs/db_password.txt	MySQLの接続パスワード。 例：「ITA_PASSWD」を暗号した文字列。 暗号仕様については※1を参照
13	○	○	○	○	○	○	(ITAインストールディレクトリ)/ita-root/conf/commonconfs/db_username.txt	MySQLの接続ユーザ。 例：「ITA_USER」を暗号した文字列。 暗号仕様については※1を参照
14	○	○				○	(ITAインストールディレクトリ)/ita-root/conf/commonconfs/path_ANSIBLE_MODULE.txt	ansibleコマンド(ansible-playbook/ansible-vault)がインストールされているパスを記載。 本サンプル⇒「/usr/local/bin」を記載

Exastro-ITA_【参考】インストール時の各コンフィグ設定値

4. ITA設定ファイル説明

No.	インストールシステム／連携ドライバ						設定ファイル名	説明
	ITA-BASE	Ansible	Cobbler	Open Stack	DSC	Ansible Tower		
15		○					(ITAインストールディレクトリ)/ita-root/conf/restapiconfs/ansible_driver/accesskey.txt	AnsibleサーバのRestAPIに使用するアクセスキー。 例：「AccessKeyId」を暗号した文字列 暗号仕様については※1を参照
16		○					(ITAインストールディレクトリ)/ita-root/conf/restapiconfs/ansible_driver/secret_accesskey.txt	AnsibleサーバのRestAPIに使用する秘密キー。 例：「SecretAccessKey」を暗号した文字列 暗号仕様については※1を参照
17		○					(ITAインストールディレクトリ)/ita-root/conf/restapiconfs/ansible_driver/ansible_playbook_watch_time.txt	AnsibleサーバのRestAPIでansible-playbookコマンドの稼働確認を行う周期を記載。(単位:ミリ秒) この周期で、最大3回まで稼働確認を行う。 例：「10」
18	○						(ITAインストールディレクトリ)/ita-root/conf/commonconfs/admin_mail_addr.txt	システム管理者の連絡先(メールアドレス)を記載。 ファイルが無い場合 ⇒「管理者へ連絡」といったリンクが無くなる
19	○						(ITAインストールディレクトリ)/ita-root/conf/webconfs/ExternalAuthSettings.ini	ActiveDirectoryの連携先情報を記載。
20	○						(ITAインストールディレクトリ)/ita-root/conf/webconfs/path_HTML_AJAX.txt	HTML_AJAXのパスを記載。 例：/usr/share/pear/
21	○	○	○	○	○	○	(ITAインストールディレクトリ)/ita-root/conf/webconfs/path_PhpSpreadsheet.txt	Phpspreadsheetのパスを記載。 本サンプル⇒「/usr/share/php」を記載

※1 base64エンコード後、rot13で変換した値。以下のコマンドで作成する。
echo -ne "（変換したい文字列）" | base64 | tr 'A-Za-z' 'N-ZA-Mn-za-m'